

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile Manufacturers Association

JAMA vol.51
2017
[September]

9月号

巻頭特集

第45回東京モーターショー2017 プレスリリース

バイクの日 スマイル・オン2017

「LIFE BEYOND」

モノづくり

働き方改革②



一般社団法人 日本自動車工業会

世界を、ここから動かそう。

BEYOND THE MOTOR

TMS

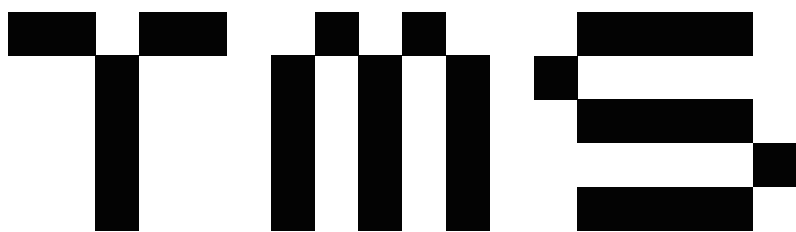
TOKYO MOTOR SHOW 2017

10.27~11.5 東京ビッグサイト

世界を、ここから動かそう。

クルマの進化は、これからどこへ向かうのだろう。その答えは、きっとひとつではない。もしかしたらそう遠くない未来、クルマという概念は今とはまるで違うものになるのかもしれない。けれど、思い出そう。クルマの本質とは何かを。それは人を動かすものだ。ココロを動かすものだ。私たちの可能性をひろげ、自由にするものだ。クルマが変われば、人やモノだけでなくもっと多くのものを動かせる。社会を前進させ、境界を超えて世界をもっと自由にできる。だからこそ東京モーターショーは、クルマという枠を超えて生まれ変わろうと思う。世界最先端のナレッジがぶつかりあい、新たなイノベーションやビジネスを生み出すイベントへと進化する。時代とともに成長しながらモビリティ産業の次のミッションを指し示す。さあ、回転数を上げよう。あらゆる境界を超えて、クルマの未来を拡張していく冒険のはじまりだ。

BEYOND THE MOTOR



TOKYO MOTOR SHOW 2017



第45回東京モーターショー2017

会期：2017/10/27(金)-11/5(日) 会場：東京ビッグサイト www.tokyo-motorshow.com JAMA 

JAMAGAZINE 2017年 9月号

発行日 平成29年9月29日
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
広報室・電話番号 03(5405)6119

©禁断断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



02

巻頭特集

第45回東京モーターショー2017 プレスリリース

08

バイクの日 スマイル・オン 2017

10

バイクラブフォーラム／バイクラブフェスタ

12

CEATEC JAPAN 2017 (シーテック ジャパン 2017)

16

自工会リリース

自工会 大学キャンパス 出張授業2017

18

連載特集

東京モーターショーの歴史③ 幕張メッセ～東京ビッグサイト

22

コラム BEYOND

モノづくり 働き方改革 他業界における先進事例②

デロイトトーマツ コンサルティング合同会社 マネジャー 石川 啓氏

23

記者の窓

「青春のサーキット」 産経新聞社 宇野貴文

24

2020年東京オリンピック・パラリンピックに 向けた取り組みについて

1 モータージャーナリスト・タレント 竹岡 圭氏

2 CEATEC JAPAN 2016の会場風景

3 バイクの日

4 自工会 大学キャンパス 出張授業

5 人で埋めつくされた東京モーターショーの会場内



共通のビジョンに向けた決意表明

全ての国内メーカー14社 公式HP一斉ジャックを発表

主催者テーマ展示「TOKYO CONNECTED LAB 2017」未来のモビリティ社会をテーマに世界最先端のナレッジが集結した最新概要を発表

一般社団法人 日本自動車工業会(会長：西川 廣人/以下、自工会)は、本年10月27日(金)から11月5日(日)までの10日間(一般公開は10月28日(土)から)、江東区・有明の東京ビッグサイトにて、第45回東京モーターショー2017を開催します。報道関係者招待日(プレスデー)は10月25日(水)と26日(木)の2日間とし、オフィシャルデーの10月27日(金)には、総裁瑤子女王殿下のご臨席を仰ぎ、開会式を執り行います。



■ 史上初！国内自動車メーカー全14社の公式HPが連動する、「TMSジャックデー」を実施

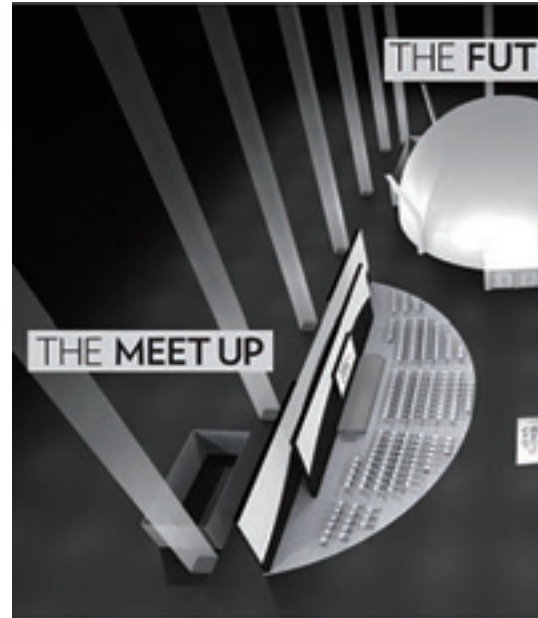
第45回東京モーターショー2017は、全ての国内メーカー14社ブランドが出演します。今回の東京モーターショーでは、

自動車産業の枠を超えて、さまざまなアイデアやテクノロジーを取り入れ「これまでのモビリティの価値を拡張していく」というビジョンを掲げ、大きく生まれ変わるための取り組みをはじめます。

「世界を、ここから動かそう。」
BEYOND THE MOTOR
「をテーマに、第45回東京モーターショー2017を新しいクルマの未来に向けた飛躍のスタート地点とする為の決意として、全ての国内メーカー14社のホームページを、24時間、東京モーターショーがジャックする「TMSジャックデー」を、9月21日11時から実施。さらに、各社のSNSアカウントからも一斉にコメントを発信します。
(オフィシャルWebサイト
↳ <http://www.tokyo-motorshow.com/>)

■ 未来のモビリティ社会をテーマに、世界最先端のナレッジが集結！「TOKYO CONNECTED LAB 2017」

くらしや社会とクルマがつながる、未来のモビリティ。それがどんな新しい価値をもたらして



くれるのか。私たちと社会のつながりをどのように変えていくのか。わかりやすく体験しながら、来場者のみなさんと考えていく参加型のプログラムです。出展エリアには、自動車メーカーはもとより、情

報通信、環境エネルギー、都市、先進素材などの民間企業、関連団体行政機関等、17社・団体が出展。各分野における最先端のプレゼンテーションが見られます。
(イメージ映像 http://www.tokyo-motorshow.com/outline/image_movie.html)

■「THE FUTURE」〜東京とモビリティの未来を描こう〜

未来のモビリティ社会の主役は、実際にモビリティを使う人たち。THE FUTUREでは、将来のモビリティ社会を構成する要素を6つの方向性(Social good, Universal, Move, Drive, Private, Share)に分類。参加者への質問を通してどんな未来が望まれているのかを、300人が一度に入場できる巨大なドーム内にいっぱい映し出すインタラクティブ展示です。未来のクルマは、将来の私たちの暮らしや社会でどんな役割を果たすのか?そして集まったデータは、未来の東京の街やモビリティのどのような未来を示すのか?来場者のみなさんとともにコミュニケーションとグラフィックの2つのモードでダイナミックに体験頂きます。

■「THE MAZE」〜都市迷宮を突破せよ!〜

モビリティとドライバー、そし

■試乗体験プログラム 会場案内図



■試乗体験プログラムの拡充

会場	実施日	試乗体験プログラム内容
センターブ롬ナード	10月28日(土)～11月1日(水) (5日間)	●パーソナルモビリティ試乗体験
お台場特設会場	10月31日(火)～11月1日(水) (2日間)	●超小型モビリティ(特設コース) ●超小型モビリティ(公道コース) ●次世代技術体験 ●エクストリーム同乗体験試乗 ●オフロード同乗試乗体験 ●電動カート試乗体験 ●商用車公道試乗体験 ●パーソナルモビリティ試乗体験
メガウェブ ライドワンコース	11月1日(水)～5日(日) (5日間)	●最新乗用車試乗体験 ●最新二輪車試乗体験

て都市がつながると、どんな価値がもたらされるのか？参加者が「コネクテッドカーに乗り込み、未来の東京を迷路に見立てゲーム感覚で解き明かしていくネットワーク型VR体験コンテンツ。30台接続したVRシステム「PlayStation VR」により、参加者が同じフィールドを同時に走行。迷路を突破するために集めた情報を、他の参加者と共有しながら、ゴールを目指します。街の中で起こる様々なコネクテッド体験を通して、将来のクルマの可能性を試乗体感頂きます。

■「THE MEETUP」も
「ビリティ」の未来を語ろう

異分野の新たな視点と出会い、「BEYOND THE MOTOR」をカタチにするために「News Picks」がプロデュースするトークセッション&ピッチイベント。トークセッション(※2)では、各界のビジネスリーダーやクリエイターがモビリティのこれからについて語り合います。ピッチイベントでは「BEYOND」をカタチにするための

提案を広く一般から募集。「決勝プレゼンテーション」で各自動車メーカーの審査員が高く評価したアイデアには実現の道も。

■試乗体験プログラムの拡充

これまで東京モーターショー会場内で実施していた参加体験型の試乗会を、今回は近隣の臨海副都心エリア(センターブ롬ナード・お台場特設会場・MEGAWEBライドワンコース)において大幅に拡充して実施します。東京モーターショー開催期間中に、様々なモビリティや乗用車・商用車・二輪車の試乗体験など、これまで以上に多くの試乗プログラムをご用意します。なお、一般公開期間は、東京ビッグサイト会場と各試乗会場間(約1.5km)を巡るシャトルバス及び次世代タクシーを無料にて運行いたします。

※1 *PlayStation. は株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標です。

Photo © 2016 Sony Interactive Entertainment Inc. All rights reserved.

※2 トークセッションは参加券付入場券の購入が必要です。etixで9/21(木)より販売いたします。



モーター・ジャーナリスト タレント
たけ おか けい
竹岡 圭氏に聞く

profile 「クルマは楽しくなくっちゃネ！」をモットーに、全ジャンルの自動車、カーライフ全般を女性視点でレポートしている。活動の場はテレビを中心に、ラジオ、イベント、雑誌、新聞、Webと幅広い。モータースポーツ業界にも参加し、2017年は全日本ラリー選手権にプライベートとして参戦している。日本自動車ジャーナリスト協会副会長。日本カー・オブ・ザ・イヤー選考委員。自動車技術会正会員。国や自治体、高速道路会社等の審議会や委員会の委員を務める。

イコールコンディションで展示されており、逆に展示車の個性が際立っていて、眺めているだけでも楽しかったのを覚えています。

続いてフランクフルト、パリ。フランクフルトではドイツメーカーが、パリではフランスメーカーが、1メーカー1建屋独占という大掛かりなブースを出展されていて、その規模と世界観に圧倒されました。

そしてアメリカのショーは、同じ国でも各地で様子が違うのが特徴的。デトロイトは自動車業界向け、ニューヨークは投資家向け、ロサンゼルスは一般市民向けなんて言われていますが、気候も穏やかなロスアンゼルスショーが、フレンドリーな感じでいちばんエンジョイできましたね。

また、最近台頭著しい新興国のモーターショーにも、上海、北京、広州、ソウル、釜山、バンコク、デリ…と、改めて挙げてみたら結構行ってますが(笑)、新興国というくらいですから、この15年間くらいで様相が大きく変わってきていて、その成長過程とそれぞれの文化の違いを体感できるどころにも、面白さがあります。

さてそんな中、東京モーターショーはどうか。最近海外からの出展メーカーが減った等々、寂しい話ばかりがクローズアップされがちですが、そんなことはありません！実は、いまいちばん見なくちゃいけない注目のショーは、東京モーターショーなんです。その証拠に、東京モーターショーに訪れる海外メディアや訪問者は、年々増えているんですよ。

その注目の理由をちよとだけお教えしましょう。昨今のクルマ業界の潮流は、何でしょうか？ そう、パワートレインと運転支援システムを始めとする最新鋭技術ですね。そのパワートレインの流れのひとつがPHVです。1997年、世界初の量産HVを世の中に送り出したのが日本のメーカーなのは、皆さんご存知だと思いますが、この世界に先駆けた10年のアドバンテージは相当に大きくて、未だに世界を歩リードしています。加えて、ディーゼルエンジンも、燃料電池も、EVも、CNGも、日本にはいま話題のパワートレインがすべてありますから、見逃す手はないんですよ。

続いて、最新鋭技術。運転支援システム系では、パーキングアシスト、通信式ACC、ステレオカメラのみの緊急回避自動ブレーキ等々、数えだすとキリがありませんが、これら話題の運転支援システムを、世界で初めて実用化したのはみんな日本。当然そこから先の技術の展示、新たなプレゼンテーションが期待できます。

さらにおもてなし系技術もそう。最初の日本発信の装備は、カッポルダーじゃないかと思えますが、イオンを使って車内の空気をキレイにするエアコンや、インフルエンザウイルスを不活性化するシート生地なんて、きっと日本人以外は思いつきもしませんよね？ このおもてなしという言葉は、いまや世界の共通語ですが、この温かい気持ちから生まれる快適装備は、常に世界の注目の的です。

というわけで、おわかりいただけましたでしょうか？世界のクルマ業界のトレンドを知ることができるのは、実は東京モーターショーなのです！これから自動車業界はどう動くのか?!是非足を運んでご覧くださいね。

私が生まれて初めて行ったモーターショーは、もちろん東京モーターショー。21歳の時だったので、クルマ好きのモーターショーデビューとしては遅いかもかもしれませんがね。しかし、それから毎年欠かさず通っているんで、出席率としてはかなり高い方だと思います。そのうち東京モーターショーでは飽き足らず、世界各国のモーターショーに向かうようになりました。最初に訪れたのはデザイン祭典と言われるジュネーブモーターショー。スイスには自動車メーカーがないので、すべてのブースが



来場者サービス

第45回東京モーターショー2017公式総合アプリ

公式アプリ(iOS/Android)を導入いたします。東京モーターショーの様々な情報を一括で確認出来るほか、主催者テーマ展示「TOKYO CONNECTED LAB 2017」への参加機能や試乗体験プログラムの事前予約機能を新たに搭載いたします。また、ナビゲーション機能やブース内の混雑具合が可視化されるヒートマップ情報、出展ブースやイベントをお気に入り登録できるカスタマイズ機能等、総合情報ツールとしてお楽しみいただけます。

東京モーターショーオフィシャルWebサイトや公式SNSでの多彩な情報発信

東京モーターショーオフィシャルWebサイトは、スマートフォン対応としており、一般来場者に向けた出展者情報や見どころなどを提供するほか、プレス・出展者向けのサイトでは、各種情報やサービスの提供を行いません。また、主催者テーマ展示「TOKYO CONNECTED LAB 2017」は専用ページを立ち上げ、新たな東京モーターショーのシンボルイベントとして、情報発信を行いません。また、SNS(Facebook、Twitter、Instagram)を活用し、東京モーターショーの各コンテンツの情報等を発信いたします。

- 第45回東京モーターショー2017オフィシャルWebサイト <http://www.tokyo-motorshow.com/>
- TOKYO CONNECTED LAB 2017 Webサイト <http://www.tokyo-motorshow.com/tcl/>
- SNS Facebook [東京モーターショー] Twitter [@tms_jpn] Instagram [tms_jpn]
ハッシュタグ [#tms2017]

グルメキングダム2017

食べ歩きの人(グルメブロガーやフードジャーナリスト)たちのオールスターチーム「食べあるキング」がプロデュースした飲食販売ブース「グルメキングダム2017」を展開します。グルメ界で名をはせる最強メンバーが集結し、今回のテーマである「BEYOND THE MOTOR」に合わせて“次世代”をテーマに、都内を中心とした有名飲食店を誘致し、会場内に計22店舗が集結します。

東京モーターショーオフィシャル・グッズ、出展者プレミアムグッズの販売

PRと集客に繋げるため、オフィシャル・グッズを販売いたします。来場記念の品やお土産に加えて、テーマである「BEYOND THE MOTOR」を体現するアイテムや他業種とコラボ商品など、様々なグッズをご用意いたします。また、人気の出展者プレミアム・グッズの販売も継続いたします。

Tokyo Motor Show Newsの発行

会場案内図を掲載するメディアとして、多くの来場者が手に取るコンテンツマガジンTokyo Motor Show Newsを発行いたします。表紙はサブビジュアルを採用。会場案内パンフレットとしてご活用いただくことはもちろん、東京モーターショーの魅力を伝え、出展車両・出展ブース情報や、周辺商業施設のレストラン等で利用できる割引クーポンを掲載いたします。

第45回 東京モーターショー2017

実施プログラム／関連イベント／来場者サービス

■実施プログラム

自動車ジャーナリスト(AJAJ)と巡る東京モーターショー

日本自動車ジャーナリスト協会(AJAJ)の会員有志がガイドとなり、参加者へ専門家の視点で東京モーターショーとクルマの魅力をガイドする、有料ツアーを実施いたします。参加者は、案内役のジャーナリストの説明を受けながら、東京モーターショーを楽しんでいただけます(参加券付入場券の購入が必要)。

日本自動車ジャーナリスト協会(AJAJ)によるガイダンス付き小学生特別見学

自動車産業への興味・関心の創出と、社会科見学の一環として小学生特別見学を実施いたします。希望により、日本自動車ジャーナリスト協会(AJAJ)会員有志による、見どころを紹介するオリエンテーションを実施いたします。

東京モーターショーシンポジウム2017

自動車業界からの情報発信の一環として、社会的に関心の高いテーマを中心に、クルマを取り巻く多彩なテーマを取り上げるシンポジウムを、東京ビッグサイト会議棟(6階)にて実施いたします(参加無料)。

東京モーターショー2017 臨海副都心スタンプラリー

東京臨海副都心地域の更なる活性化に繋げるため、一般社団法人 東京臨海副都心まちづくり協議会の会員施設等を巡るスタンプラリーを会期中に実施いたします。

■関連イベント

各イベント内での露出と連携

本年秋の同時期に開催されることを好機と捉え、開催時期の近いイベントとの連携により、東京モーターショーの情報発信を行ないます。情報・通信の国内最大の展示会 CEATEC JAPAN 2017(会期:10月3日(火)から6日(金)、場所:幕張メッセ)では、相互協力・連携を実施し、協賛社講演枠にてプレゼンテーションを実施するなど、相互PRを実施します。

「Future Mobility Summit:Tokyo 2017」／「Car Design Forum Tokyo 2017」の自工会協賛

日経グループ及び電通が実行委員会形式で開催するビジネスカンファレンス「Future Mobility Summit:Tokyo 2017」、及び英国のCar Design News及び電通が実行委員会形式で開催する「Car Design Forum Tokyo 2017」に自工会が協賛いたします。

働くくるま・珍しいくるま大集合

10月28日(土)～29日(日)、臨海ホールディングスグループ主催により、イーストブロンナードにて開催される「働くくるま・珍しいくるま大集合!」に自工会が後援いたします。

8月19日 / サナギ新宿で開催



バイクの日 スマイル・オン2017

夏の恒例行事となった8月19日のバイクの日。週末となった今年は、新宿区にオープンした商業施設「サナギ新宿」で「バイクの日スマイル・オン2017」を開催し、多くの二輪車ファンで賑わった。イベントは日本自動車工業会と日本二輪車普及安全協会の主催で、国内二輪車4メーカーの車両展示をはじめ、バイク好きの著名人によるトークショーなどを行った。当日は、自工会二輪車特別委員会・委員長柳弘之ヤマハ発動機社長をはじめ国内二輪車4メーカーによる合同記者会見も実施した。

柳委員長開会式あいさつ

1989年に制定された8月19日のバイクの日は、交通安全意識の啓発をはじめ、二輪車やバイクの日の認知度向上、若年層や女性層など幅広い年齢層をターゲットに国内二輪車新車市場を活性化するのが狙いだ。会場には国内二輪車4メーカーの人気モデルを展示したほか、著名人によるトークショーや警視庁の交通安全のステージやくまモンのステージなどに幅広い年齢層が訪れた。会場のサナギ新宿はJR新宿駅東南口の甲州街道高架下にオープンした商業施設。会場内に4台、JR新宿駅の広場にも4台の二輪車を展示した。



柳委員長は、二輪車メーカー4社について「日ごろバイクを作る仕事をしている。非常に面白い仕事だ」とモノづくりの楽しさを伝えると同時に「二輪車は乗ると非常に楽しい乗り物。そしてモトGPをはじめ二輪車は見ても楽しい」とした。作って、乗って、見て面白い乗り物だけに「安全、安心、正しく乗ることが前提になる。お客様がワクワクするものを作りながら、正しく適切に乗っていただくための環境を業界で作っていきたい」とした。

1970年代のバイクを所有する千原ジュニアさんと、トライクやカートが趣味の南明奈さんとのゲストトークショーでは、仲間とのツーリングの楽しさを伝えた。ジュニアさんは「バイクで仕事に行くことも多い」としたほか、奥さんとのタンデムツーリングも楽しんでいるという。南さんも二輪車の魅力に関心を寄せていた。

警視庁の交通安全ステージでは、女性白バイ隊「クイーンズタース」のメンバーとマスコットキャラクター「ビーボくん」による交通安全をテーマとしたクイズ形式のショーを行った。くまモンのスベシャルステージには家族連れが多く来場し、○×形式のクイズを楽しんでいた。

ファッションをテーマにしたトークショーも行い、タレント・モデルの鈴木奈々さんとバンドツエッタジローラモさん、ファッションデザイナーの森岡弘さんが二輪車とファッションや、二輪車の楽しさを披露した。会場には展示車両をイメージにコーディネートしたファッション展示





ゲストトーク



二輪4社合同記者会見



くまモン



ファッショントーク



ホンダ



スズキ

も良い、新たな楽しみ方を伝えた。

アニメファンの楽しみは最後に開催した二輪車と女子高生の日常をテーマにしたアニメ「ばくおん!!」ステージだ。声優の内山夕美さんとプロデューサーの高橋和彰さんが出演し、国内二輪車4メーカーの協力や高橋プロデューサーの二輪免許取得などアニメの裏話を披露した。来場したアニメファンも二輪車ユーザーが目立ち、関心の広がりを見た。

開会式では内閣府の金子健政策統括官付交通安全対策担当参事官、警視庁の中村彰宏交通部交通総務課課長、新宿警察署の宮橋圭祐署長を来賓に迎え、柳委員長をはじめ安部典明本田技研工業執行役員(二輪車特別委員会副委員長)、浅野剛川崎重工執行役員(同)、西河雅宏スズキ二輪事業本部技術統括部長(同)、渡部克明ヤマハ発動機取締役(同)、和辻健「自工会常務理事、林田武人日本二輪車普及安全協会専務理事らが出席した。

当日は二輪4社合同記者会見も開催し、2016年の世界の二輪車生産のなかで日本ブランドシェアが約45%に達したと説明。国内市場については大阪と東京のモーターサイクルショーについて来場者数が過去最高記録を更新したほか、MotoGP日本グランプリの観客数は増加傾向にあり、モーターサイクルスポーツで女性ライダーが活躍するなど、二輪車への関心が高まっている。

国内販売については、2016年度に21万台を超えた軽二輪が2017年度も好調。今後の方針についても小型限定(125cc)免許取得の負担軽減に向けた取り組みや、11月まで実施中の二輪車ETC「首都圏ツーリングプラン」による定額プランの初導入などを掲げた。安全教育も重視し、高校生バイク利用の全国調査や、高校における二輪車の安全教育事例集を制作し、全国の教育委員会に配布する今年度の計画を発表した。さらに9月に群馬県前橋市で開催する「第5回BIKE LOVE FORUM in群馬・前橋」、「BIKE LOVE FESTA in群馬前橋」をはじめ、10月の第45回東京モーターショー2017を軸に、二輪車市場の活性化を図っていく。



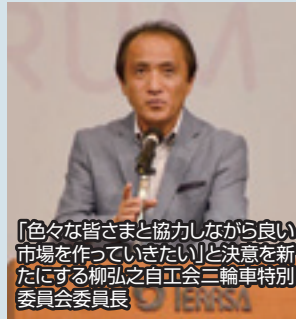
雨にもかかわらず、各社の新型車に高い関心が寄せられた



用品メーカーもブースを出展



群馬のご当地アイドル「あかぎ団」も登場し、バイク&地元愛をPR



「色々な皆さまと協力しながら良い市場を作っていきたい」と決意を新たにする柳弘之自工会三輪車特別委員会委員長



群馬県警は白バイ隊が着用しているエアバック胸部プロテクターを披露し、胸部保護の重要性をPR



先行事例の講演やパネルディスカッションなどで活発な意見が交わされた

第5回「BIKE LOVE FORUM (BLF) in 群馬・前橋」が9月16日、前橋テルサ(群馬県前橋市)で開かれた。業界関係者や一般参加者が二輪車市場の活性化などについて意見を交わしたほか、翌日には近隣で一般向けイベント「BIKE LOVE FESTA in 群馬・前橋」も開かれ、あいにくの雨模様を吹き飛ばすように参加者で賑わった。

台風余波の雨を吹き飛ばす賑わい

「BIKE LOVE FORUM」(9月16日) 「BIKE LOVE FESTA」(9月17日)

群馬・前橋で開催

■群馬県の取り組みに注目

今回のBLFの目玉は、群馬県の二輪車に対する前向きな取り組みだ。同県は全国に先駆けて「群馬県交通安全条例」を3年前の暮れに施行。第6条では学校等の管理者に対する責務として、生徒等へ年齢に応じた交通安全教育の充実に努めることを求めた。同時に県議会は交通安全教育作りのほか「運転免許は本人の希望で取得できるようにすること」などを決議した。この結果、「3ない運動」に基づく

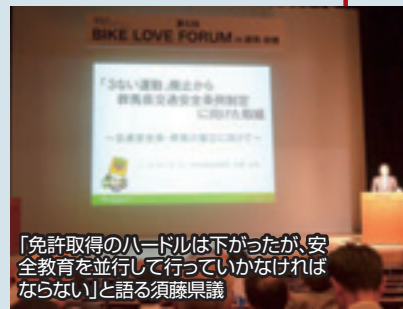
この結果、「3ない運動」に基づく



「フォーラムを全国各地で開催することで、我々がやってきた活動を含め、バイクの魅力をさらに強く発信していく」と強調する経産省の河野自動車課長

運動のもと「安全教育が置き去りにされてしまった」との意識から条例を制定し、教育関係者に意識改革を求めた。この結果、原付や四輪の免許を取る高校生が増える一方、初心者の事故率が減り始めるなど成果

故が多いことがわかった。3ない運動のもと「安全教育が置き去りにされてしまった」との意識から条例を制定し、教育関係者に意識改革を求めた。この結果、原付や四輪の免許を取る高校生が増える一方、初心者の事故率が減り始めるなど成果



「免許取得のハードルは下がったが、安全教育を並行して行っていかなければならない」と語る須藤県議

BLFとは？

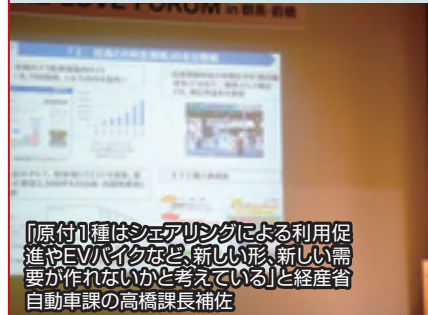
BIKE LOVE FORUM (BLF)とは、世界に通用する素晴らしいバイク文化の創造を目指すとともにバイク産業の振興、市場の発展等を図ることを目的とし、バイクに関わる企業・団体・地方自治体等が核となり、利用者等も交え、関係者間で社会におけるバイクへの認知と受容、共存のあり方や、バイクの将来像等に関して真摯に議論し活動する取り組みです。



第1回BLFの様相



新車展示、輸入車



「原付1種はシェアリングによる利用促進やEVバイクなど新しい形、新しい需要が作れないかと考えている」と経産省自動車課の高橋課長補佐

グ論についての講演
若者向けマーケティング
ルディスカッションや
全教育に関するパネ
ルディスカッションや
高校生向けの交通安
全教育に関するパネ
ルディスカッションや
BLFではこのほか、
高校生向けの交通安
全教育に関するパネ
ルディスカッションや
若者向けマーケティング
グ論についての講演

策ロードマップ」の進
ちよくを紹介。製造産
業局の河野太志自動
車課長は「このフォー
ラムがきっかけとな
り、どう市場を盛り上
げるか、知恵を絞り、一
歩一歩前進していき
たい」と意気込みを示し
た。高橋一幸課長補佐
はロードマップの見直
しに触れ、販売目標を
クラス別に見直すこ
とや、減少が著しい原
付1種の活性化策を
官民で協議している
ことを明らかにした。
BLFではこのほか、
高校生向けの交通安
全教育に関するパネ
ルディスカッションや
若者向けマーケティング
グ論についての講演



野本選手の華麗なデモと軽妙なトークに大きな拍手が

が行われた。
日本自動車工業会の二輪車特
別委員会委員長を務める柳弘之
ヤマハ発動機社長は「我々とし
ても、オートラクティブな商品
出せば（市場が）反応してくる
ことがわかった。機能的な価値、
情緒的な価値という話が（講演
で）あったが、伝える方法がまだ
十分ではない。リアルな場をもつ
と作るべき、これが今後の取り
組みのキーポイントになるので
はないか。色々な皆さまと協力
しながら良い市場を作ってい
たい」と語った。

■群馬出身ライダーもデモやトークを披露

翌17日の「BIKE LOVE
FESTIVAL in 群馬・前橋」はあ
り、第6回BLFは岩手県
一関市で開催する。自身もライ
ダーという佐藤善仁副市長は、
「準備万端整
えて皆さんを
お待ちしております
ります」とア
ピールした。

県の餅文化
や、今や全国
区となった地
ビールフェス
ティバルなど
を紹介した後、
「準備万端整
えて皆さんを
お待ちしております
ります」とア
ピールした。

10月3日(火)～6日(金)

幕張メッセ(千葉市美浜区)で開催

今回のテーマは

「つながる社会、共創する未来」

CPS(サイバーフィジカルシステム) /IoT(モノのインターネット) 総合展「シーテックジャパン 2017」(主催=シーテックジャパン実施協議会)が10月3日～6日に幕張メッセ(千葉市美浜区)で開催される。今年は日本の成長戦略や未来を世界に向けて発信するソサエティー5.0の展示会として、「コネクテッドインダストリーズ」に取り組む政府や産業界の連携を紹介する。自動車メーカーや部品メーカーも多数出展し、自動運転や先進運転支援システム(ADAS)の最新技術や製品を提案する。

CPS / IoT 総合展に

シーテックジャパンの開催

テーマは「つながる社会、共創する未来」。16年に脱・家電見本市を宣言し、IT・エレクトロニクス業界にとどまらず、製造業(ロボット・工作機械)や建設業、サービス業(銀行・観光)地方自治体などが社会課題の解決策を提案するCPS / IoT総合展に生まれ変わったシーテックジャパンが新たな方向性を打ち出す。

従来の「新製品やサービスが中心の展示会」から「ビジネスモデルの展示会」へと進化。政府の科学技術政策の基本指針で、狩猟・農耕・工業・情報に続く5番目の変革と位置付けるソサエティー5.0を目指し、さまざまなつながりで新たな付加価値を創出する産業社会を構築する「コネクテッドインダ

ストリーズ」に取り組む政府や産業界の連携を発信する。

社会課題の解決をテーマにしたIoTやビッグデータ、人工知能(AI)、ロボットなどを活用した未来を描き、事業やモノ+サービスを披露する。日本企業とのマッチングの場として、インドをはじめ海外のスタートアップ企業の出展を誘致する。16年はCPS / IoT総合展にシフトした効果もあり異業種や海外、ベンチャーの出展が目立った。出展者数と来場者数ともに前年を上回っている。

これまでの家電製品や電子部品を中心とした展示内容から転換したこともあり、自動車関連企業の誘致も進んだ。昨年は日本の部品メーカーが自動運転やADAS向けの最新技術や製品を展示や実演を通じて提案し、次世代車の方向性を示した。海外のメガサプライヤーも初出展するなど自動車業界

にとってシーテックジャパンは重要なショーケースとなっている。17年の来場者数は同10.2%増の16万人を見込む。

展示は4つのテーマ

展示は、自動車や輸送用機器などの「社会・街エリア」とスマートハウスやウェアラブルなどの「家・ライフスタイルエリア」、CPS / IoTを支えるソフトウェアなどの「デバイス・ソフトウェアエリア」、CPS / IoTを活用する企業が集結する「特別テーマエリア」の4つで構成する。

特別テーマエリアでは主催者特別企画展「IoTタウン2017」が注目を集めそうだ。さまざまな産業のフロントランナーがソサエティー5.0の実現に向け、新たなビジネスモデルにつながるアイデアや



CEATEC JAPAN 2016の会場風景

パートナーとの共創を発信する。

「スマートホーム」では住宅と住設機器、家電メーカーが合同出展し、つながりにより描く新たな住まいの価値を、「フィンテック」では銀行やベンチャー企業がIoTにより変革する金融業界の未来を紹介する。「スマート農業」では農業者がデータを駆使して生産性の向上や経営の改善に挑戦できる環境を生み出すため、ベンダー間のデータ連携を可能にする機能や、土壌や気

象など公的データの提供機能を有する「農業データ連携基盤（データプラットフォーム）」の取り組みを発信する。「スマートファクトリー」ではファナックやアマダホールディングス、ジェイテクト、I.T.エレクトロニクスメーカーなどによる「つながる工場」を紹介する。

IoTタウンではブース展示と合わせ、フィンテックやスマートホーム、スマートシティをテーマにしたフロントランナーによるコンファレンスやソサイエティ5.0を特集した冊子の配布なども行う。

一興味深い企画展

これ以外にも興味深い企画展が並ぶ。「AI・人工知能バシリオン」では産業技術総合研究所（AIST）と人工知能研究センターが連携し、AIのプラットフォームとして注目を集めるデータプランニングや自然言語処理、画像解析などの最新技術から、農業・健康・医療・マーケティングなどへの適用まで先鋭的なAI企業を集めた特

別企画展示を行う。4日と5日には国際会議場で「シートテック×産総研人工知能コンファレンス」を開催する。

「ベンチャー&ユニバーシティエリア」では、CPS/IOTに関連する製品技術サービスを開発・提供するベンチャー企業と大学の研究機関が活動状況を発表する。参加企業や大学の研究機関がピッチを行うミニステージも設置し、ビジネス機会創出の場としても利用できる。

海外バシリオンを設置

シートテックジャパンは海外企業にとつても重要な情報発信の場だ。今回、インドの全国ソフトウェアサービス企業協会（NASSCOM）と連携し、インドバシリオン「インドシヨーカーズ」を初設置した。約13億人を抱え、著しい経済成長を上げていくインドのスタートアップと中小企業が集まる。IT人材の不足が深刻化する日本と、IT人材を売り込みたいインドとの絶好のマッチングの場と

なりそうだ。これ以外にもアメリカやイギリス、フランス、中国、台湾などもバシリオン設置や出展を予定する。

「グローバルスタートアップシヨーカーズ」は、起業前を含む海外のスタートアップ企業やグローバル展開を目指す国内外のスタートアップを対象にしたエリアで、今回が初設置となる。展示のほか、スタートアップによるプレゼンテーションやネットワーキングイベントを開催する。

コンファレンスは100以上も

エリア別展示とともにシートテックジャパンの特徴であるコンファレンスは全100セッション以上で、総勢200人を超える各分野のキーパーソンが登場する。ソサイエティ5.0や共創イノベーション、AI/IOTをキーワードとする基調講演のほか、自動運転やAI、5G、セキュリティ、データ活用など、自動車業界にも関係の深いテーマのセッションが行われる。

CEATEC JAPAN

— CPS/IoT EXHIBITION —

2017

Interview



CEATEC JAPAN実施協議会
エグゼクティブプロデューサー
(日本エレクトロニクスショー協会執行理事)

鹿野 清氏に聞く

>>> profile

1975年ソニー入社。以後テレビやパソコンなど国内外の事業を担当し、2008年業務執行役員シニアバイスプレジデントに就任。全世界の販売および展示会・スポンサー事業を担当する。2012年より渉外部門を担当。2016年に日本エレクトロニクスショー協会の顧問に就任。翌2017年より現職。CEATEC JAPANやINTER BEEなどの展示会改革に取り組む。1951年生まれ、66歳。

昨年CPS／IoT総合展に変更 今年は成果や内容を示す展示会に

18年目となるシーテックジャパンの今回のテーマは

シーテックは以前、日本のIoT・エレクトロニクス業界を代表する家電見本市でした。しかし、昨年からは市場や世界の動きに合わせて展示会のカテゴリーを「最先端IoT・エレクトロニクス総合展」から、「CPS（サイバーフィジカルシステム）／IoT総合展」に変更し、大きく舵を切りました。「つながる社会、共創する未来」というテーマは昨年と同じで今年も変わりません。昨年は新たな方向性を発表したお披露目の意味合いもありましたが、今年は実際の成果や内容も伴う形にしているという取り組みんでいます。

「提供企業と使用企業を紹介」
具体的には
例えば昨年からは特別エリアでの企画展示「IoTタウン」はさらに多くの企業に参画

「提供企業と使用企業を紹介」
具体的には
例えば昨年からは特別エリアでの企画展示「IoTタウン」はさらに多くの企業に参画

約3割が新規出展に

「出展企業の傾向に変化は見られませんが
新たな展示会の方向性を打



してもらえはるはずですよ。

IoTテーマは世界初

―海外からの注目度は

私の知る限り、ここまでメー
ンテーマをIoTに絞りきつた展
示会は世界でも他にありません。
海外からも興味を持って
いただいています。特にスタート
アップのビジネスチャンス作
場としてアメリカや中国、台湾、
韓国の企業が多く参加しま
す。さらに今年にはインドを代表する
大手企業やスタートアップなど
30社が出展いただけることにな
り、初めてインドショーケースを
設置します。日本の産業界の活
性化に加え、海外の企業との共
創をシーテックのもう一つの切り
口としていきます。

自動車との新しい関係

―電子・電機業界と自動車業界
の関係性について、どうみられ
ていますか

これまで電子・電機業界は電
線やメーター、モーターなど部
品を自動車関連企業に供給す

るところにとまっています。
それが電気自動車に加えて自
動走行技術も出てきたことで、
AIやIoTなどの新たな技術
が車両に求められるようになって
きており、単なるサブライ
ヤーではない重要なポジション
を担うようになってきたと思っ
ています。二つの産業の関連性
は新しい関係性が求められる時
代になってきているのではない
でしょうか。

シーテックを利活用

―シーテックジャパンが自動車
関連企業に期待することは

2006年に日産自動車が初
出展したのをきっかけに、続々
と自動車メーカーなど関連企業
のシーテックへの出展が増えて
いきました。思い起こせば今も
てはやされている自動走行も日
産自動車がシーテックの場で考
え方を発表するなど、いろんな
実験をされたと記憶していま
す。自動車産業の方々には、トラ
イルの技術や考え方をシーテッ
クで披露し、IoTや電機業界と
交流することでブラッシュアッ

プしてきたという印象がありま
す。今後はつながる産業の広が
りによって、シーテックの出展企
業も多様化していきます。自動
車業界の方々にはこれまで以上
に様々な業界からの反応を見る
テストの場としてシーテックを
利活用していただきたい。

TMSの発信力に期待

―シーテックの後に開催される
東京モーターショーにエールを
お願いします

それぞれ立ち位置や状況は
異なりますが、自動車産業だけ
ではなくいろんな他業種の方が
一緒に出展されているという点
では共通点があると思います。
これらがつながっていくと、社会
としてどんな新しいことが提供
できるよようになるかということ
をモーターショーでもシーテッ
ク同様に考えていってもらいた
いです。またモーターショーは
シーテックと異なり、一般の方々
も多く来場します。IoTが身
近な世界になってきていること
を一般の方々にも発信していっ
ていただきたい。

ち出したことで、昨年は
出展者のうち約3割が
新規出展となりました
が、今年も新規出展の企
業が3割程度になる見
込み。出展企業の中身も
変わってきました。昨年
初めて三菱東京UFJ
フィナンシャルグループ
に出展いただきました
が、今年には三井住友フ
ィナンシャルグループも
ブースを出展します。コ
ンフランスにはみずほ
フィナンシャルグルー
プも参加していただきま
す。日本の3大メガバン
クが出展するというこ
の例だけでも、シーテッ
クが変わったことを実
感していただけるとは
ないでしょうか。また、
旅行会社のJTBや工
作機械のファナック、アマ
ダなど、それぞれの産業
分野における代表的な
企業が出展します。IoT
やAIの具体例が既
に日々の暮らしの中に
あるということを感じ

大学キャンパス出張授業2017

一般社団法人 日本自動車工業会（会長・西川 廣人）は、各地の大学と連携し、会員メーカーから講演者を派遣して特別講演を行う取組み「大学キャンパス出張授業2017」を実施いたします。

本事業は、若者の「クルマバイクへの関心醸成」「自動車産業ものづくりへの理解促進」に向け2013年度から実施しており、今回で5年目の開催となります。

自動車メーカーの社長をはじめとしたトップクラスが自ら大学へ赴き、クルマ・バイクの魅力、日本のものづくりの重要性を大学生に直接語りかけるといった趣旨で、いずれの年も盛況となり、ご参加頂いた多くの方から「クルマやバイクへの関心が高まった」といった好意的な評価を頂いております。

本年度も、社長をはじめとした経営トップが講師として登壇し、先端技術やグローバル戦略な

ど幅広いテーマの授業を通じて、クルマ・バイクの魅力や楽しさ、日本のものづくりの重要性を伝えていきます。

また、この出張授業をきっかけに一人でも多くの若い方にクルマ・バイク、ものづくりへの関心を持って頂き、10月27（金）に開幕する「第45回東京モーターショー2017」に多数ご来場頂けることを期待しております。

「大学キャンパス出張授業2017」は公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会から、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の「東京2020応援プログラム」に認証された事業です。

川崎重工業 〔熊本大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：11月24日（金） 10:20～11:50 ●場所：工学部百周年記念館 ●講演者：堀内 勇二 執行役員 MC&Eカンパニー技術本部長 ●講演テーマ、内容：「熊本大学工学部プロジェクトX講演〈1粒で2度おいしいバイク用スーパーチャージャーの話〉」 ●対象：熊本大学生、大学院生 《お問い合わせ》 熊本大学 機械システム工学科（川川准教授） [☎096-342-3299]
マツダ 〔明治大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：12月8日（金） 13:00～14:30 ●場所：生田キャンパス第二校舎 2003番教室 ●講演者：廣瀬 一郎 常務執行役員 ●講演テーマ、内容：「SKYACTIVに込めるこれからのクルマづくり、守るべきもの、変えるべきもの」 ●対象：明治大学生、大学院生 《お問い合わせ》 マツダ（株） 国内広報部（春木 健） [☎03-3508-5056]

注）通常の授業の一環として行われる回もありますので、取材等を受け入れられない場合もございます。詳細については各社連絡先にお問い合わせください。

※その他、本件全般に関するお問い合わせ
一般社団法人 日本自動車工業会 広報室
TEL：03-5405-6119 FAX：03-5405-6136

日野自動車 〔東京都市大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月25日（水） 13:20～15:00 ●場所：世田谷キャンパス 2号館210教室 ●講演者：遠藤 真 取締役・専務役員 ●講演テーマ、内容：「商用車の現状と将来」 ●対象：東京都市大学生 《お問い合わせ》 日野自動車（株） 広報室 [☎042-586-5494]
ダイハツ工業 〔神戸大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月25日（水） 15:10～16:40 ●場所：六甲台第2キャンパス 工学研究科内LR501講義室 ●講演者：三井 正則 代表取締役会長 ●講演テーマ、内容：「ものづくり 人づくり 夢づくり」 ●対象：神戸大学生 《お問い合わせ》 ダイハツ工業（株） 広報・渉外室 [☎03-4231-8856]
三菱自動車工業 〔早稲田大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月26日（木） 14:45～16:15 ●場所：西早稲田キャンパス57号館 202教室 ●講演者：山下 光彦 取締役副社長執行役員 CPLO ●講演テーマ、内容：「自動車会社で学んだこと」 ●対象：早稲田大学全学部生・大学院生 《お問い合わせ》 三菱自動車工業（株） 広報部 [☎03-6852-4274、4276]

■各授業の日程・問い合わせ先

社名 〔開催大学〕	内 容
三菱ふそう トラック・バス 〔東北大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月3日(火) 13:00~14:30 ●場所：青葉山東キャンパス 機械系講義棟 第4講義室 ●講演者：松永 和夫 代表取締役会長 ●講演テーマ、内容：「革新技術で世界をリードする三菱ふそうのものづくり」 ●対象：東北大学生 《お問い合わせ》三菱ふそうトラック・バス(株) 広報部(品田) 【☎044- 330-7590】
日産自動車 〔慶應義塾大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月4日(水) 11:10~12:40 ●場所：湘南藤沢キャンパス オメガ11教室 (予定) ●講演者：西川 廣人 代表取締役社長 最高経営責任者 ●講演テーマ、内容：「自動車産業の進化と求められるリーダー像」 ●対象：慶應義塾大学生 《お問い合わせ》日産自動車(株) ジャパンコミュニケーション部 【☎045-523-5521】
スズキ 〔筑波大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月4日(水) 15:15~16:30 ●場所：筑波キャンパス 2H棟201教室 ●講演者：鈴木 俊宏 代表取締役社長 ●講演テーマ、内容：「スズキのものづくり」 ●対象：筑波大学生 《お問い合わせ》筑波大学 教育推進部 教育推進課 教務グループ 【☎029-853-2207】
UDトラックス 〔上智大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月11日(水) 9:15~10:45 ●場所：四谷キャンパス 6号館405教室 ●講演者：ピエール・ジャン・ヴェルジュ・サラモン シニアバイスプレジデント ●講演テーマ、内容：「Truck business in global-UDT Journey」 ●対象：上智大学生 《お問い合わせ》UDトラックス(株) 広報(牧野) 【☎080-4638-2248】
トヨタ自動車 〔東京大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月11日(水) 18:00~19:30 ●場所：本郷キャンパス 伊藤謝恩ホール ●講演者：河合 満 副社長 ●講演テーマ、内容：「トヨタのモノづくり、人づくり」 ●対象：東京大学生、大学院生 《お問い合わせ》トヨタ自動車(株) 広報部 【☎03-3817-9115】
ヤマハ発動機 〔横浜国立大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月12日(木) 16:30~18:00 ●場所：教育文化ホール ●講演者：柳 弘之 代表取締役社長、長屋 明浩 執行役員、井端 俊彰 ポート事業部長 ●講演テーマ、内容：「『翔ぶために』ヤマハラしさを創る」 ●対象：横浜国立大学生 《お問い合わせ》ヤマハ発動機(株) コーポレートコミュニケーション部企画グループ 【☎0538-32-1145】



SUBARU 〔東京工業大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月12日(木) 17:00~18:30 ●場所：大岡山キャンパス 大岡山西9号館 デジタル多目的ホール ●講演者：吉永 泰之 代表取締役社長、日月 丈志 代表取締役専務執行役員 ●講演テーマ、内容：「個性を活かして生きようよ!」 ●対象：東京工業大学生、大学院生 《お問い合わせ》(株)SUBARU 広報部 【☎03-6447-8484】
いすゞ自動車 〔関東学院大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月13日(金) 13:15~14:45 ●場所：金沢八景キャンパス フォーサイト2階 202教室 ●講演者：奥山 理志 技術本部 開発部門 執行役員 ●講演テーマ、内容：「『運ぶを支える』先進技術~これからのトラックに求められる事~」 ●対象：関東学院大学生(理工学部機械学系) 《お問い合わせ》いすゞ自動車(株) コーポレートコミュニケーション部 【☎03-5471-1203】
本田技研工業 〔東京理科大学〕	<ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月18日(水) 18:00~19:30 ●場所：葛飾キャンパス 図書館大ホール ●講演者：八郷 隆弘 代表取締役社長 ●講演テーマ、内容：「商品づくりから私が学んだこと」 ●対象：東京理科大学生 《お問い合わせ》本田技研工業(株) 広報部 企業広報課 【☎03-5412-1512】



プロトタイプ「プリウス」。



どこに通路があるのか分からないほど、人で埋めつくされた会場内。



仮設の北ホールに商用車コーナー。



ホンダが提案した21世紀のクルマの姿、参考出展の試作車「FCX」。

～成熟期～ 東京モーターショーの歴史③ 幕張メッセ 東京ビッグサイト

1989年(平成元年)～1999年(平成11年)

1989年～1999年

千葉幕張メッセ時代の幕明け。大幅な来場増対策と来場者利便性の向上に工夫。参考出展車が増えて、未来を見せるショーへ。

千葉幕張メッセの「こけら落とし」として、1989年に初開催した第28回ショーは、「自由走、ハートが地球を刺激する」にテーマを設定。国産メーカーが欧米の高級車に匹敵するクルマ作りに挑戦し、トヨタ「セルシオ」、日産「インフィニティQ45」、三菱「ディアマンテ」が登場した。バブル経済の真只中、入場者数、報道関係者数は過去最高を記録し、入場者累計3000万人を突破した。このショー以降、国内、海外のメーカーの展示ブースが同フロアに並ぶようになった。

第29回ショーでは、モーターショー専用の仮設「北ホール」を新設し、入場者数が初めて200万人を超えた。開催テーマは「発見、新関係。人・くるま、地球」とし、安全技術に焦点を当てたテーマ館を設置した。主催者企画「幼児くるま絵画展」をスタートした。

1990年の第30回ショーは、「女性にやさしいモーターショー」をスローガンに掲げ、乳児・幼児サービスセンターの設置や女子トイレ増設など、女性来場者の利便性向上に尽力した。バブル崩壊で不況感が強い中、全出展台数の約3分の1を参考出展車が占めるなど、未来を見せるショーとしての色合いが濃かった。

第31回ショーのテーマは「感じる夢、感じるくるま」。「ミニバンやスポーツカーの参考出展が目立ったほか、トヨタがプロトタイプ「プリウス」を出展した。閉場時間を19時まで延長したことで、仕事帰りに立

東京モーターショーは、モーターライゼーションの高揚と歩みを共にした拡大期を象徴する晴海時代から、第28回ショー(1989年)以降、千葉幕張メッセに会場を移し、内容、規模とも成熟期に入った。第42回ショー以降は、有明、東京ビッグサイトに会場を移し、大幅に来場者の利便性が高まった。この成熟期は、海外メーカーを含め、各出展メーカーとも参考出展車の積極的な投入が加速し、ショーとしての発信力が高まった。商用車や福祉車両にも本格的にスポットを当てたほか、海外ショーに先駆けて、次世代モビリティの提案にいち早く取り組んだ。ショーの運営手法においても、展示・集客ともに新たな工夫が凝らされ、女性・子ども客を含めた来場者視点为重視された。国際ショーとしての成熟期を迎えた幕張時代(第28回開催・1989年～第41回開催・2009年)、および有明時代(第42回開催・2011年～)を振り返る。



1999年に復元された初の国産量産車「オートモ号」。



テーマ館では車両はもちろん、部品ごとの技術展示も行われた。



人気で長い待ち時間だった公道同乗試乗会。



2階にVIP専用ラウンジが設けられた輸入車ブースが目立った。



F1やラリーをはじめとした国内メーカーによるモータースポーツ参戦史を展示。

2000年(平成12年)~2002年(平成14年)

2000年~2002年

ちられるショーとして評価された。少年少女モーターサイクルスポーツ体験スクールを開催。
1997年の第32回ショーは、2階建て展示が認められ、海外メーカーを中心に立体的で動的な展示手法が目立った。開催テーマは「つ・な・ぐーあなたとくるま」。
第33回ショーは、乗用車・二輪車と商用車を初めて分離した「乗用車・二輪車ショー」として開催した。テーマは「未来発走。くるまが変わる。地球が変わる」。テーマ館は「日本のくるま100年」として、乗用車・二輪車の懐かしい実車を多数展示した。国内メーカーが、燃料電池自動車やハイブリッド車を参考出展して、注目を集めた。現役総理大臣として初めて、小淵首相が来場した。

アジア初の総合商用車ショーを開催。環境、ITS、福祉に焦点が当てられる。

2000年の第34回ショーは、アジア初の総合商用車ショーとして開催し、軽、小型、中型、大型のトラック、バス、福祉車両、RVなどが展示され、ビジネスユースに限らず、一般ユーザーも楽しめる内容だった。各社とも「環境、ITS、福祉」にテーマを絞り、ハイブリッドやCNG、DPP装置などの環境技術を披露したほか、車いすでの乗降に工夫を凝らした福祉車両などを展示した。商用車の公道同乗試乗会は長蛇の列ができるほど人気だった。商用車ショーは以後2004年まで、隔年開催で継続する。

第35回ショーのテーマは「Open the door! くるま、みらいを、ひらく」。テーマ館「その時」日本の技術が時代のトビラを開いた」では、初の国産量産車「オートモ号」を展示した。公道での電気自動車同乗試乗会を実施したほか、日産のカルロス・ゴーン社長がサブライズで「GTR」のコンセプトカーを突然発表した。出展されたコンセプトカーをゲームソフト上で運転できる体験コーナーが人気を集めた。初の来場施策として、電子チケットシステムを導入した。

2002年の第36回ショーは、2回目の商用車ショーで、テーマは「進化の予感。働くくるまのスタジアム」。ビジネスユースとパーソナルユースの双方の性格を兼ね備えたスポーティな商用車のプロトタイプが注目を集めた。前回の商用車ショーに引き続き、公道同乗試乗会が好評で、大型トラック、トレーラー、福祉車両など30台が用意された。

2003年~2010年

「見せるショー」から「参加体験型ショー」へ大きく転換。出展者と来



パーソナルモビリティの近未来の姿、トヨタ「i-REAL」。



2010年度内の発売を発表した日産のEV「リーフ」。



電気自動車時代のスポーツカーの提案、三菱「iMIEVスポーツ」。

キャビンの向きを前後に変えられる、日産「ピボ」。



休憩エリアも多くして来場者へのホスピタリティも向上。



リフトアップシートを体験、トヨタ「ラウム・ウェルキャブ」。



50周年記念特別展示プレスプレビュー in日比谷公園で走行した「トヨベットクラウンRSD型」。

2003年(平成15年)~2010年(平成22年)

場者の双方向のコミュニケーション重視。電気自動車や燃料電池車など次世代車の試乗会を積極的に実施。

第37回ショーのテーマは「いま挑む心。Challenge & Change」希望、そして確信へ」。従来のショーから大きく変貌し、参加・体験型イベントを大幅に拡充したほか、シンポジウムも18テーマで積極的に開催するなど、出展者と入場者の双方向コミュニケーションを前面に打ち出した。女性向けイベント企画や子ども向けアトラクションも用意した。アメリカのビッグ3が最新のコンセプトカーを展示するなど、ワールドプレミア約90台、ジャパンプレミア約100台と、名実ともに世界トップレベルのショーとして充実した出展内容だった。国産メーカーは、「コンパクトなクルマで生活を楽しむ」方向性を提示した。

2004年の第38回ショーは、3回目を迎えた商用車ショーで、「一般ユーザーへの浸透を狙って、ショーのサブタイトルを「働くくるま」と福祉車両」に設定した。この効果で、女性来場者数比率が25%と大幅に高まった。特に福祉車両への同乗試乗会が好評で、「家族連れも多い商用車ショー」として世界でも類をみない成功を収めたが、商用車だけのモーターショーとしては、この回で「区切り」となった。

第39回ショーは、東京モーターショー開催50年という区切りを迎え、50周年記念パレードを実施した。当時また市販されていない燃料電池車や電気自動車などのクリーンエネルギー車の同乗試乗会を実施したほか、高齢者や身体障がい者への来場対応に工夫を凝らしたショーだった。国内メーカーでは、街中で使い勝手が良い超コンパクトカーのコンセプトモデルの出展が目立ち、日産「ピボ」、トヨタ「ファインX」などが注目を集めた。

2007年の第40回ショーのテーマは「世界に、未来に、ユースです」。10年ぶりに乗用車、二輪車、商用車を同時展示する総合ショーの形態に戻った。この展示形態は、5大モーターショーの中では東京だけだった。このショーで、オンラインチケット購入サービスをスタートさせた。このショーでは、国内メーカーによるショーモデルの出展が目立ち、環境や人間への優しさ提案された。また、スズキ「ピクシー」やトヨタ「i-REAL」など一人乗り「コミューター」の実用化を感じさせる出展が目立った。日産、スバル、三菱の電気自動車、マツダの進化型水素ロータリー、ホンダの「FCXコンセプト」公表など、国内メーカー各社が近未来技術レベルの高さをショーモデルで示した。

第41回ショーのテーマは「クルマを楽しむ、地球と楽しむ」。国内メーカー各社がハイブリッドカーの次の手を示し、電動化車両の実用化が見えてきたショーだった。トヨタのプラグインハイブリッド車「PHV」、日産の電気自動車(EV)「リーフ」(公開(翌年市販)、三菱のPHVとEV、スバルのEV、ホンダのEV)とハイブリッドスポーツなど、次世代技術が積極的に提示された。日本自動車ジャーナリスト協会会員による会場内ツアーがスタート。入場料の無料枠を中学生以下に拡大した。

連載特集



盛り上がる限定1万人のプレビュー・ナイト。



テストライドで超小型モビリティを体験走行。



前二輪、後一輪の新世代三輪バイクのヤマハ「LMW」。



テストライドで同乗体験。

2011年(平成23年)~2015年(平成27年)

2011年~2015年

24年ぶりに会場を東京に戻す。海外ショーに先駆けて、主催者テーマ事業「スマートモビリティシティ」を発信し、最先端テクノロジーによる、「人とクルマと都市の未来」を提案。

2011年の第42回ショーは、東京有明の東京ビッグサイトに会場を移し、来場者利便が大幅に向上した。テーマを「世界はクルマで変えられる。」とする一方、新たに主催者テーマ事業「スマートモビリティシティ」を立ち上げ、自動車メーカーに加え、住宅メーカーやベンチャー企業も参画して、人とクルマと都市の未来像を具体的に提案した。これは、海外ショーに先駆けて実施した意欲的なテーマ展示で、次世代自動車やスマートコミュニティに来場者が実際に触れたり、操作したりして、近未来都市を実感できる工夫が凝らされた。このテーマ展示は、以後2015年まで継続される。

第43回ショーは、都心の会場立地を生かして、平日15時以降に入場できるアフタヌーン券や、18時以降入場のナイター券を設定し、好評だった。また、会場近隣で「お台場モーターフェス」を開催することで、乗物の祭典感の演出でショーの盛り上げを図った。トヨタは燃料電池車の量産市販を公表したほか、マツダは新エンジンで環境対応を提案した。ダイハツ、スズキは様々な生活シーンに合わせたショーカーを提案した。国内メーカー各社は、運転する楽しさの発信に焦点を当てる傾向が目立った。

2015年の第44回ショーのテーマは「さっと、あなたのココロが走り出す。」。世界一のテクノロジーショーを目指し、水素燃料電池車や電気自動車といった電動化技術、自動運転技術などを中心に、環境と安全技術の集大成を世界に向けて発信した。シンボルイベントとして開いた主催者テーマ事業「スマートモビリティシティ2015」は3回目を迎え、未来の街を体験できるテーマパーク型展示とした。また、会場の混雑を可視化したり、ブースやイベントを案内するナビゲーション機能を持たせた公式総合アプリ「TMSモバイル」を無料で公開するなど、ITを駆使して利便性を高める工夫を凝らした。

東京モーターショーの初回から第44回ショーまでの歴史を3回の連載を通じて振り返ってきた。隔世の感を覚えるほどの目覚ましい自動車技術の変化に驚きを覚えると同時に、世界の自動車技術をリードし続けてきた国内自動車メーカーの技術研鑽の足跡に、改めて自動車産業の存在感の大きさと人間の生活に与える影響の大きさを認識させられる。今年10月27日、「第45回東京モーターショー2017」が、「世界をここから動かそう。BEYOND THE MOTTOP」をテーマに開幕する。世界に冠たる技術発信イベントとしての地位を築き続けてきた東京モーターショーが、何を見せてくれるか、世界中の期待が集まっている。



他業界における先進事例②

今回は、日本のモノづくり産業(特に技術製品開発)における工数不足の実態と、打ち手として量(開発工数逼迫への対応)質(より高度な開発への対応)両面での生産性向上が不可欠であることを示しました。

今回は、両者について自動車業界以外での先進的な取り組み事例を紹介いたします。
(a)量(開発工数逼迫)への対応

モノづくり 働き方改革

前回は、両者について自動車業界以外での先進的な取り組み事例を紹介いたします。
(a)量(開発工数逼迫)への対応
前回述べたように、工数の増加が見込まれない中では、エンジニア個人の生産性を高めることが最も重要な手立てです。まずは現実を考えてみましょう。エンジニアの方は、いつも開発に集中できているでしょうか?数多くの会議への出席、電話対応、部下のフォロー...など、様々な業務に追われ、開発業務に集中できているのは実は業務時間の半分もない...といった方もいるのではないのでしょうか。この問題に対し、独特の取り組みをしている企業があります。米シリコンバレーに本拠を置きます。Pivotal Software社というIT企業です。出自からは、自由なワークスタイル、という開発環境を想像しがちですが、同社では決まった出社時間があり、勤務中は徹底した無駄の排除、効率向上を目指しています。例えば、必要な情報を欠かさず共有する朝礼を行う、2人1組でフォロワーあいながら開発(プログラミングに

従事し、開発が止まらないようにする、そして途中で休憩を取って買い物に行くなどの無駄を省くために、無償で従業員に朝食を提供する、等です。このように所定時間内は開発に集中する仕組みを、同社では、規律(discipline)と呼んで重視しています。モノづくりに関わる方は、この取り組みに既視感を抱くのではないのでしょうか?実はこの取り組みは、生産性の高さで群を抜く日本の工場を参考にし、それを開発現場に取り込んでいるのです。皆様の職場では業務に集中できる、規律はありますか?
(b)質(高度な開発)への対応
近年、日本のモノづくりにおいて、高度かつ大規模な開発が予定通りに進まず...という事例がよく報じられます。原因として、複雑なシステム全体の設計検証が当初想定より大規模になったため、ということが多いようです。自動車においても、新規のプラットフォーム開発や、より上位概念のモジュール構造の開発に際して同様の困難に直面しているエンジニアの方も多いのではないのでしょうか。一方で、成功している企業はどのように対処しているのでしょうか。近年、大規模かつ高度なシステムを検討する際の考え方として、システム思考(systems thinking)が注目されています。これは、対象とする製品機構について、全体の要

素を抽出整理し、相互の因果関係を漏れなく把握しながら開発を進めようとするものです。即ち、ある特定の部分について機能の改善を行おうとした際にも、システム全体にどのような影響を及ぼしているか、ということに常に理解しながら進められ、対処が準備できて効率的なのです。典型的な大規模システムである航空機などではこの考え方の適用が進んでいます。大手航空機メーカーである米Boeing社では、システム思考で全体を考える専門部隊のSystems Engineering部門が存在し、個別部門での開発と全体の関係(他の領域への影響が出ないか、など)を把握できる仕組みになっています。一見すると当たり前の考え方のように思われます。日本でも、かつては全体を俯瞰できる、生き字引のようなエンジニアがいて、全体から個別まで自在に把握しながら開発ができたと言われます。一方で近年はどうでしょうか。開発部門が細分化され、領域毎の課題は詳しく整理されるようになっていますが、全体と相互の影響やその大きさを考える部門、専門家は存在するのでしょうか?または育てているのでしょうか?
以上、生産性向上への取り組みを、モノづくり産業の中で見てきました。今回は、自動車業界における最近の取り組みを概観し、目指す姿を考えたいと思います。

profile エレクトロニクスおよび自動車エンジニアの経験を経てDTC入社。自動車業界を中心に、特にR&D領域における戦略立案、開発プロセス改革などの支援プロジェクトに従事。



産経新聞社

うの たかふみ
宇野 貴文

青春のサーキット

①自動車業界担当となった今年の夏の課題は「ペーパードライバー卒業」だった。BMWの新車試乗会に参加するため、7月15日、約四半世紀ぶりに富士スピードウェイ（静岡県小山町）に足を運んだ。

②実は中学・高校時代に、このサーキットを走った経験がある。といっても、無免許運転をしたわけではない。学校の秋の大行事のマラソン大会の会場だったのだ。

③神奈川県屈指のマンモス校だった母校には当時、1学年だけで中学は750人、高校は1600人はいたと記憶している。大学受験を控えた高3生は参加しなかったとはいえ、5千人超の生徒が富士山麓を走る光景は壮観だったろう。でも、走るほうはたまったものではない。

④サーキットは1周約5キロもあり、坂やカーブもある。長距離走は苦手、参加したのは10キロ部門だったが、2周回るだけでもシンドイ。そもそも車が走る所を、なんで人間が走らなければならないのだ？!

⑤母校は高校野球で甲子園に出場するなどスポーツ強豪校としても知られていたが、こんなところで体力を消耗したくないのか、出走せずに涼しい顔をして給水係をやっている坊主頭の運動部員がチラホラいた。

⑥日頃、勉強もそっちのけで運動ばかりしている連中がスポーツマンシップを身につけているとは限らない。水の入った紙コップをランナーに差し出すふりをして、手を引っ込める意地悪なやつが

いたのは今でも忘れられない。


⑦そんな苦い青春の思い出があるサーキットで、40歳になり、腹も出始めてきた記者を迎えてくれたのはピカピカのBMW。「神様からのご褒美」と思いたいところだが、ペーパードライバーには「豚に真珠」だった。

⑧車の運転は、小泉政権時の郵政総選挙取材で北海道東部をレンタカーで走り回ったとき以来12年ぶりだ。運転席に座ると、「浦島太郎」状態になり戸惑った。

⑨「あれ、エンジンキーはないの?」「えーと、あの引き上げるやつ…サイドブレーキだけ?どこにあるの?」

⑩係員に操作方法を教わりながら、なんとか発進したが、ウインカーを出そうとしたらワイパーが動き出し、止めたくても止められない始末だ。恥ずかしいったらありやしない。他の車にぶつからないようヒヤヒヤしながらサーキットに出ると、なんとか勘は取り戻せた。運転は下手でも、アクセルやブレーキのレスポンスのよさなどは実感できた。

⑪母校はいつからか富士スピードウェイでのマラソン大会をやめたようだが、全国から集まる大勢の市民ランナーがサーキットで走る「富士マラソンフェスタ」は小山町の名物行事として定着しているそうだ。今年は11月18日に開催される。

⑫かつての自分は感じる余裕はなかったが、富士山を望みながら走る気持ちは格別らしい。車の運転もいいけど、また走ってみようか。出てきた腹をさすりながら、そう考えている。.....

「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みについて」 スペシャルWebサイトを公開しました!

TOKYO2020 オリンピック・パラリンピック
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みについて



HOME

文化・ムーブメント

科学技術・イノベーション

日本自動車工業会(以下、自工会)は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた自工会の取り組みについて紹介する、スペシャルWebサイトを開設しました。

<http://www.jama.or.jp/tokyo2020/>



2020年東京オリンピック・パラリンピック大会(以下、大会)は、世界中から注目され、国内外から多くの人々が訪れる素晴らしいイベントです。

自工会は、この機会をとらえ、全ての人々の「移動の自由」の確保、安全・快適で持続可能なモビリティ社会の実現に向けて、自動運転の実証、超小型モビリティや次世代自動車の活用に取り組みます。あわせて、スポーツの振興、バリアフリー社会の実現など、文化の創造と醸成にも積極的に取り組みます。

以上、自工会は、大会の成功と将来につながるレガシーの形成(豊かなモビリティ社会の実現)に向けて、業界一丸となってチャレンジしていきます。

Webサイトでは今後、各種イベント情報やイベントレポート、また2020年を目指した自動運転実証実験や、自工会の中長期モビリティビジョンなどについて順次公開していきます。





時間に縛られない自由さが
クルマの心地よさ。

寄り道は
クルマならではの
旅の楽しみ!

思わぬところで、
えっ、スゴイ! って感動や、
なにコレ? っていう驚きや、
ワ~っ! っていう楽しみに会える。

素敵なワクワクを
たくさんみつけよう!

さあクルマで、
Let's YORI-MICHI Drive!

安全運転で楽しいドライブ!!

クルマの正しく安全な使い方については <http://www.anzen-untten.com>

JAMA 一般社団法人 日本自動車工業会
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館

世界を、ここから動かそう。

BEYOND THE MOTOR



TOKYO MOTOR SHOW 2017

10.27~11.5 東京ビッグサイト